

2024 . Aug .

 奈良県立医科大学附属病院  
Nara Medical University Hospital

Vo1. 3

# MER

Medical Engagement Relationship

地域医療連携

だより

- 地域連携・入退院支援センター設立1年のご挨拶 … 3
- 教授就任挨拶 … 4
- 高度生殖医療センターを開設しました！ … 5
- 2023年度 紹介・逆紹介 実績報告 … 6
- 第19回地域医療連携懇話会 開催報告 … 9
- 奈良医大は逆紹介を推進しています … 10
- 地域連携・入退院支援センターからのお知らせ … 12

# 理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

# 方針

## 1 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

奈良県内唯一の特定機能病院として高度医療・先端医療を推進します。  
また高度救命救急センターに加え、ER救急の整備等により救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、奈良県民を守り地域の安心の確保に貢献します。

## 2 奈良県内基幹病院としての機能の充実

5疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）をはじめとするあらゆる疾患に着実に対応するとともに、患者安全の取組を推進し、奈良県内基幹病院としての役割を果たしていきます。

## 3 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進

地域医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支えます。

## 4 各領域の担い手となる医療人の育成

附属病院における卒後教育を通じて、超高齢社会に対応する地域包括ケアシステムをはじめ各領域の担い手となる患者と心が通い合う医療人を育成し、地域医療の向上に貢献します。

# 行動指針

- 病状や治療方針を分かりやすく説明し、安全で質の高い医療を提供します。
- 高度で先進的な医療を提供します。
- 医の倫理にしたがい、患者さんの意思と権利を尊重し、心の通い合う医療を提供します。
- 県における基幹病院として、地域の医療機関との連携を図り地域医療に貢献します。
- 臨床教育を充実し、人間味豊かで県民から信頼される優秀な医療人を育成します。



## 地域連携・入退院 支援センター

### 設立1年のご挨拶

地域連携・入退院支援センター長  
消化器・代謝内科 教授

吉治 仁志

地域医療連携室と入退院支援センターがひとつの組織となりました「地域連携・入退院支援センター」が発足し、1年が経過しました。実地医家を始め、多くの方々から多大なるご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この1年間、センターを通じて多くの患者さんを支援できたことは、ひとえに地域の医療機関や関連施設の皆様のご理解とご支援のおかげであると深く感謝申し上げます。今後もより多くの紹介患者さんを受け入れ、奈良県の地域医療に貢献してまいりたいと考えております。当センターでは、システムを常に見直しながら各医療機関からの紹介患者さんを迅速かつ適切に受け入れる体制を整えておりますので、今後も継続して積極的にご紹介いただければ幸いです。

急を要するケースや高度先進医療を含めて特別な配慮が必要な症例については、お気軽に地域連携・入退院支援センターまでご連絡ください。患者さんにとって最善かつ的確な対応を心掛けてまいります。

また、地域医療などに関する情報を共有する場として、定期的に地域連携セミナーなど

の勉強会を開催しております。これらの活動を通じて地域の医療関係者との連携を深め、奈良県民により良い医療を提供できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

患者さんが自分で都合の良い時間に予約が取れるように患者さんからの直接予約システムや、診療後にインターネットから予約を取って頂けるシステムも、実地医家の先生方の負担をできるだけ減らせるようにブラッシュアップを目指しています。また、感染対策も兼ねた院内の混雑緩和のため、スマホでの診察待ち・会計・お薬待ち表示確認なども導入しています。

これからも地域医療のため県民一人ひとりに対してしっかりと対応しながら、連携先の先生、コメディカル、事務の方々など地域医療連携に関係する全ての方と共に更なる充実を図っていきたいと考えております。引き続きご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 教授就任挨拶

総合診療科

教授 吉本 清巳



2024年4月1日付で総合医療学講座の教授を拝命しました吉本清巳と申します。

当講座は1999年に総合医療・病態検査学講座として開講し、総合診療科として診療を開始、2004年から総合医療学講座となり現在に至っています。中村忍教授、西尾健治教授が発展させてこられた講座を引き継ぎ、その責任を強く感じております。私は幼少期から山添村で地域医療をしている父の姿を見て地域医療・総合診療に興味を持ち、自治医科大学を卒業後、十津川村で2年間、曾爾村で4年間地域医療に従事しました。医師2年目の2004年に当講座に入局し2012年から教員として戻っています。

大学の総合診療科ではどの科でも診療の対象になりにくい症状（不明熱、貧血、体重減少、全身倦怠感など）の診療、どの科で診療を受けたらよいかわからない患者さんの適切な専門科紹介、診断・治療に難渋している症例の外来・入院診療などを行っています。専門科を特定できなくても大学病院での治療が望ましい疾患・病態、診断・治療に難渋する症例等がありましたら、外来症例でも入院症例でも当科にご紹介いただければ幸いです。県下唯一の大学の総合診療科であり、奈良県の最終ディフェンスラインとしての役割を、

しっかりと果たしてまいりたいと思います。

リウマチ外来も整形外科と連携して運営しており、リウマチ・膠原病の患者様につきましてもぜひご紹介ください。2022年から在宅医療支援センターも運営しており、近隣の地域の先生方の不在時のオンコールを引き受けております。病院全体での365日ERにも科として参加し、毎週平日の複数日ERを担当しています。引き続き、地域の救急医療にも貢献していきたいと思っています。

総合診療領域は、高度に専門分化していく医療の中で、総合的に診療する、全人的に診療する、家庭や地域にも目を向けて診療する分野として必要とされ、成長している領域です。医学教育のコアカリキュラムでも近年多くの総合診療領域の教育内容が取り入れられており、医療者の育成にも重要な領域と考えられています。2018年からの新専門医制度では新たな専門領域として認められ、当講座から現在8名の総合診療専門医が誕生しています。

全人的にも医学的にも頼れる総合診療専門医を育て、総合診療を通じて奈良県の医療に貢献して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 高度生殖医療センターを 開設しました！

現在、本邦の抱える大きな問題として少子高齢化があります。少子化は顕著であり、2015年までは年間出生数は100万人を維持していましたが、2022年におよそ78万人となり、ここ数年は急激に減少しています。これらより生殖補助医療に対する社会的な期待は非常に大きくなっています。厚生労働省は、不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦の数は5.5組に1組と報告しています。また、体外受精の治療数は年々増加し2021年には498,140件となり、体外受精児数も同年には69,797人、実に出生数の8.60% (69,797/811,622)に達しています。

このような背景から、2024年4月1日に奈良県立医科大学附属病院高度生殖医療センターが開設されました。これは、奈良県にお住まいの方を中心に不妊で苦しむ生殖世代の方に妊娠、出産、育児を経験していただき豊かな人生を送っていただくことを目的としています。



高度生殖医療センター副センター長  
産婦人科 教授

木村 文則



高度生殖医療センターでは、一般不妊治療や高度生殖医療（体外受精）の他、奈良県内の医療施設としては初めてとなる数多くの診療を行います。

- ①内視鏡手術と体外受精のハイブリッド診療
- ②着床前診断（認可後）
- ③卵巣組織凍結保存（認可後）
- ④精巣内精子採取をはじめとする男性不妊手術 など

です。特に卵巣組織凍結保存は、女兒や化学療法施行後の女性がん患者の唯一の妊孕性温存方法です。私は、西日本でこの保存を最も多く行ってまいりました。もちろん卵子凍結、受精卵（胚）凍結、また、男性の精子凍結などの他の妊孕性温存療法も行います。これらの診療を奈良県内のがん治療施設と連携しながら精力的に行ってまいります。また、複数の診療科のある総合病院の強みをいかし内科疾患などの合併症でお悩みの方に不妊治療のサポートを行います。これらを地域医療を担われている先生方と連携しながら行ってまいります。

以上のようなことを通して一人でも多くの奈良県内の患者、医療施設のみなさまに喜んでいただける高度生殖医療センターをスタッフ一同で作ってまいりたいと思います。

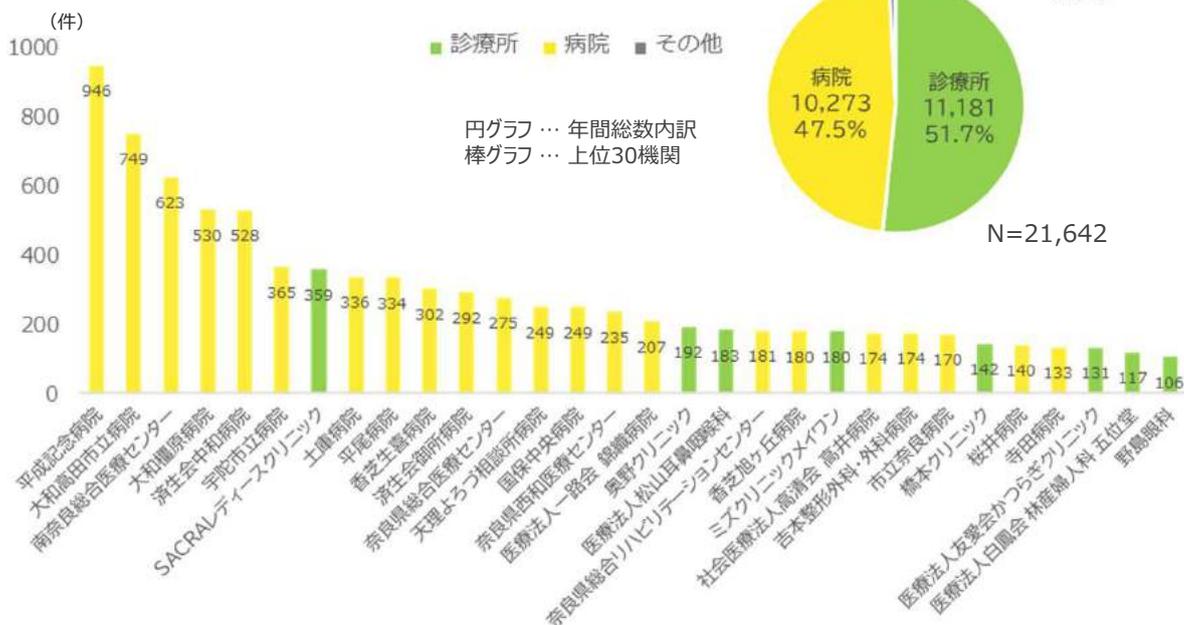
# 2023年度 実績紹介

## ● 主な項目の推移

	2022年度	2023年度	前年度比
初診紹介患者総数	20,907件	21,642件	103.5%
初診紹介 予約数	14,197件	15,273件	107.6%
予約取得率	70.4%	72.9%	2.5ポイント増
逆紹介患者数	20,677件	22,342件	108.1%

## 初診紹介実績

### ● 医療機関別 紹介件数



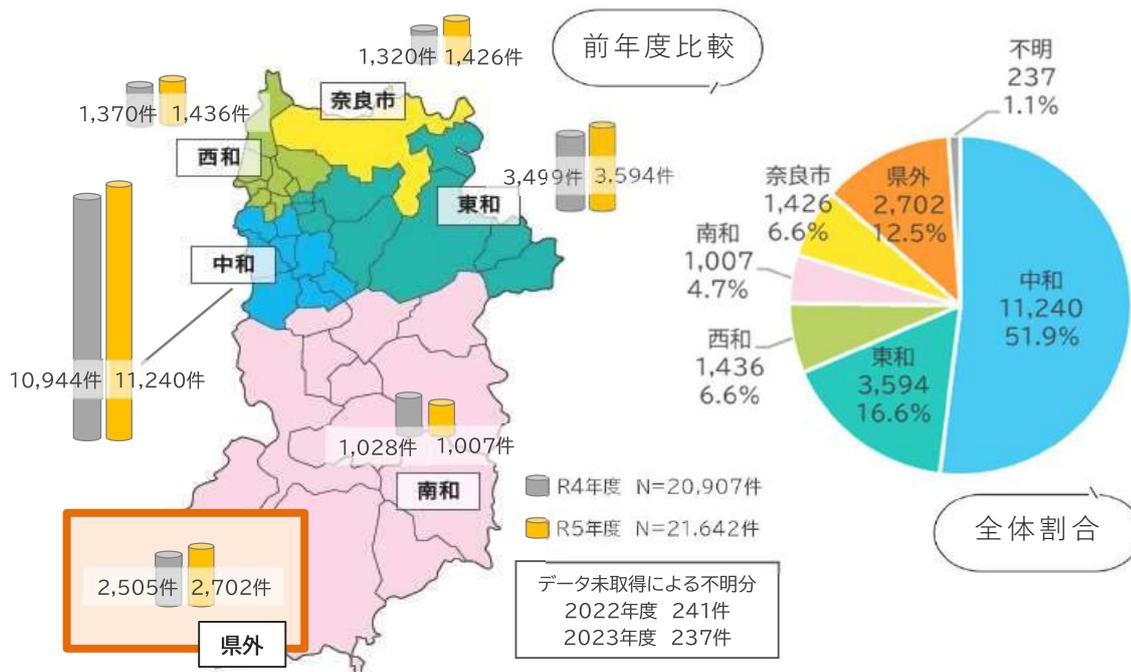
### ● 医療機関別 紹介件数 (病院・診療所別 各上位10機関)

○ …連携登録医

医療機関名(病院)	件数
1 平成記念病院	946
2 大和高田市立病院	749
3 南奈良総合医療センター	623
4 大和豊原病院	530
5 済生会中和病院	528
6 宇陀市立病院	365
7 土庫病院	336
8 平尾病院	334
9 香芝生喜病院	302
10 済生会御所病院	292

医療機関名(診療所)	件数
① SACRALレディースクリニック	359
② 奥野クリニック	192
③ 医療法人松山耳鼻咽喉科	183
④ ミズクリニックメイワン	180
⑤ 橋本クリニック	142
⑥ 医療法人友愛会かつらぎクリニック	131
⑦ 医療法人白鳳会 林産婦人科 五位堂	117
8 野島眼科	106
9 さない内科整形外科医院	100
10 新進会眼科	94

● 初診紹介患者数 医療圏別内訳



● 初診紹介患者予約状況 年度別推移



● 月別初診紹介患者受け入れ件数 および 紹介率推移(前年度対比)

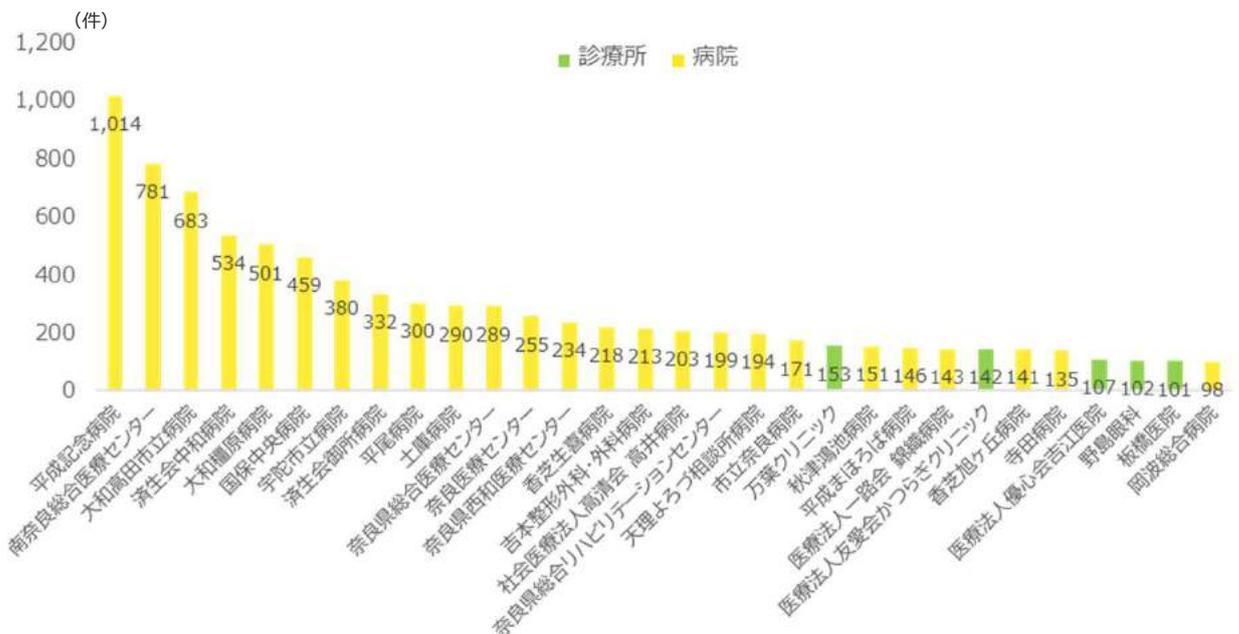


## 逆紹介実績

### ●月別逆紹介件数 および 逆紹介率推移(前年度対比)



### ● 医療機関別 逆紹介件数 (上位30機関)



### ● 医療機関別 逆紹介件数 (病院・診療所別 各上位10機関)

○ …連携登録医

医療機関名(病院)		件数	医療機関名(診療所)		件数
1	平成記念病院	1,014	①	万葉クリニック	153
2	南奈良総合医療センター	781	②	医療法人友愛会かつらぎクリニック	142
3	大和高田市立病院	683	③	医療法人優心会吉江医院	107
4	済生会中和病院	534	4	野島眼科	102
5	大和橿原病院	501	⑤	板橋医院	101
6	国保中央病院	459	⑥	ひがみりウマチ・糖尿病内科クリニック	97
7	宇陀市立病院	380	7	新進会眼科	97
8	済生会御所病院	332	⑧	近藤クリニック真美ヶ丘腎センター	94
9	平尾病院	300	⑨	医療法人康成会藤原京クリニック	89
10	土庫病院	290	⑩	友愛会 しらかしクリニック	84

# 第十九回 地域医療連携懇話会 開催報告



ひがみりウマチ・  
糖尿病内科クリニック  
理事長 樋上 謙士



南和広域医療企業団  
吉野病院  
前院長 福岡 篤彦



奈良医大 地域医療学  
教授 赤井 靖宏

地域の医療関係者を対象に医療の現状や諸課題の情報共有などを目的とした懇話会も、今年で19回目の開催となりました。引き続き対面およびWEBでの同時開催を行い、様々な職種の参加者に集まっていただきました。

今回のテーマは「生活習慣病」。講演Ⅰでは、ひがみりウマチ・糖尿病内科クリニック 樋上 謙士 理事長から「生活習慣病診療におけるかかりつけ医の取り組み」と題して特定健診の大切さなど詳細なデータに基づいたご講演をいただきました。続いて講演Ⅱでは、吉野病院 福岡 篤彦 前院長から「生活習慣病は生活習慣を変えましょう！」と題して呼吸リハビリテーションのお話しと笑いヨガの実演をしていただき、さらに講演Ⅲでは、本学地域医療学講座 赤井 靖宏 教授から「STOP☆Diabetes 変わりゆく「糖尿病」とその診療～すべての医療者と共有したいポイント～」と題して糖尿病に関して予防や初期の血糖コントロールの重要性などをわかりやすくお話しいただきました。

お忙しい中、ご参加ならびにご協力いただきありがとうございました。アンケート結果につきましてはホームページに掲載しております。



インフォ  
メーション

奈良医大附属病院は

# 逆紹介

を推進しています

奈良県立医科大学附属病院は地域の基幹病院であるとともに、県内唯一の特定機能病院であり、同じく県内唯一の医科大学の附属病院として医療の教育・研究も担っています。

これらのことから、当院は専門性の高い医療を提供する、一般病院とは異なる役割を担うことが求められています。

2022年度および今年度の診療報酬改定においても「外来診療の機能分化」は重要視されているところですが、実際のところは患者さんの

「大病院志向」が全国的に根強く、専門的治療が必要としない患者さんまでもが大病院へ集まってしまっているのが現状です。

このような状況を改善するべく、当院では症状が安定し日常的管理に移行された患者さんについては、積極的に地域医療機関（かかりつけ医）への逆紹介を行っております。地域医療機関の先生方におかれては、地域医療連携の趣旨をご理解いただき、逆紹介受け入れへのご協力をお願いいたします。

## Point! かかりつけ医に逆紹介することによる患者さんのメリット

- ・お住まいの地域で通いやすい環境
- ・医大受診時よりも短い時間で受診が可能
- ・日常的な健康相談ができる
- ・症状によっては再度医大へ紹介してもらえる

...など



当院での治療等により症状が安定したら...

# 逆紹介

高度医療、専門的な検査や治療が必要な場合は...

# 紹介



手術や入院、専門的検査や複数科にわたる包括的な治療などが必要な際はぜひ当院にご紹介ください。（緊急の場合を除き、地域連携・入退院支援センターを通じたご予約の取得をお願いいたします。）

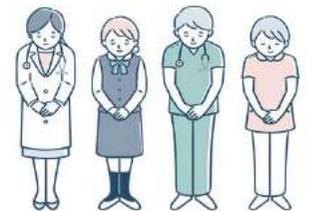
なお、ご紹介いただく際には、医大で行う治療は紹介内容に基づくものに限られること、また医大での治療により症状が安定すれば紹介元

である自院、もしくは症状に適した地域医療機関へ逆紹介され、逆紹介先で日常的かつ継続的なフォローを行うことを患者さんにご説明くださいますよう、ご協力願います。

再び症状の変化などが見られる場合は医大に再紹介していただくことで、地域と医大とで患者さんへ一貫した切れ目のない医療の提供を行うことができます。

当院では、初回受診後の返書、治療中の経過報告、逆紹介時の診療情報提供書など、紹介元への患者情報の提供・共有に力を入れております。

ご紹介いただいた患者さんについて、ご不明な点や確認したいことなど、情報が不足している場合はいつでもご連絡ください。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。



## 令和6年度 開催予定イベント 開催日決定！

\ 01 /

第6回 ※1  
連携登録医のつどい

令和6年  
11月14日(木)

\ 02 /

第20回  
地域医療連携懇話会

令和7年  
2月13日(木)

当院医師と直接交流し、普段の連携についての意見交換などが行える「連携登録医のつどい(※1)」、そして医療に関するたくさんのトピックから最新情報を共有する場として開催している「地域医療連携懇話会」。毎年恒例となっている上記2イベントを今年度も開催いたします！

内容等、詳細は決まり次第ホームページ等に掲載させていただきますが、まずは日程のみ先にお知らせいたします。ぜひ多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

登録医制度の詳細  
はコチラから

※1…「連携登録医のつどい」は当院の「連携登録医制度」にご登録いただいている先生方のみご参加いただけます。ご登録をされていない先生方におかれては、ぜひこの機会に「奈良医大連携登録医制度」にお申し込みください。



編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域連携・入退院支援センター

〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL (代表) 0744-22-3051/ (直通) 0744-29-8022

FAX 0744-23-9923 URL <https://hospital.naramed-u.ac.jp/>

発行 2024年8月